製造業

取材日：2024年7月19日

株式会社富士通ゼネラル 様

社外での業務や在宅勤務を行う従業員が利用する
PCのセキュリティを担保

持ち出しPCの情報漏洩対策

FUJITSU | 株式会社 富士通ゼネラル

https://www.fujitsu-general.com/jp/

創立年月	1936年1月15日	資本金	18,219 百万円
代表者	代表取締役社長 経営執行役社長 増田　幸司	従業員数	単独 1,734 名 連結 8,765 名 2024年3月時点

- IT統括部 ITセキュリティ推進部 部長 二階堂 信夫様（左）
- IT統括部 ITセキュリティ推進部 四宮 成美様（右）

導入の目的 HDD暗号化だけでは、データ漏洩が起こる可能性を否定できない
シンクライアントよりも安価にセキュリティを高めたい

BEFORE

Shadow Desktopの活用状況

当社では、サーバーやネットワーク、個々の端末におけるセキュリティ対策を推進するITセキュリティ推進部が主管し、2023年10月に600ライセンスのShadow Desktop Premiumを導入しました。実際にShadow Desktopを利用しているのは、在宅勤務を行う従業員、または業務でPCを持ち歩く従業員などです。社内ポータルにShadow Desktopのインストーラを置き、利用者各自がダウンロードし、インストールしてもらうスタイルでShadow Desktopを配布。PC内のユーザーデータは、OneDriveにアップロードする仕組みにしています。

Shadow Desktop導入のきっかけ

在宅勤務に対応できる環境を整える取り組みを始めようとしていた矢先、新型コロナウイルスの蔓延で、在宅勤務対応が急務になったことがきっかけです。在宅勤務の場合、従業員に配布しているノートPCを社外に持ち出すわけですから、自ずと紛失してしまうリスクが高まります。もちろん、HDDの暗号化は施していましたが、今の時代は暗号を突破されてしまった前提でのセキュリティ対策が必要不可欠。第三者の

（左）
IT統括部 ITセキュリティ推進部
四宮 成美 様

手に渡った場合でも、万が一にもデータ漏えいは起きない仕組みを考えなければなりません。そもそもPC内にデータがなければ、セキュリティ対策に苦慮する必要は少なくなります。そのため、多くの企業がシンクライアントをセキュリティ強化の選択肢として検討します。しかし、シンクライアント導入には、高額な初期費用や運用コストが課題となります。そこで、当社はコストを抑えつつ、セキュリティ強度を高める代替案として「データレスクライアント」に注目しました。ローカルにデータを残さない運用を自動的に実行するセキュリティソリューションは、まさに当社が求める仕組み。そこで、2022年11月頃から「データレスクライアント」の比較・検討を行うことにしました。

裏面へつづく

Shadow Desktopを選んだ理由

複数の「データレス」製品を比較・検討し、最終的にはセキュリティ強度が高いと判断した2製品をピックアップ。そのひとつがShadow Desktopでした。我々はこの2製品をお借りし、1～3カ月かけてPoC（Proof of Concept：概念実証）を実施。その結果、選定したのがShadow Desktopとなります。以下がShadow Desktopの選定理由です。

選定理由〈1〉 容易に導入できる

当社の従業員すべてが必ずしもITリテラシーが高いわけではありませんから、導入に手間取ると「データレス」が進みません。その点、Shadow DesktopはPCへのインストールが簡単。誰もが迷わず手軽に導入できます。しかも、インストールに必要な容量は10MBほど。ディスク容量に余裕がない従業員もいるため、ディスク容量への影響が少ないShadow Desktopは非常に助かります。

選定理由〈2〉 動作が安定

「データレス」の仕組みを入れることによって、PCの動作に影響が出てしまう製品は導入できません。しかし、Shadow DesktopはPoCの期間中、動作が安定していました。従業員によっては、パーティションを区切って、複数のドライブを作成し活用していますが、そうした環境でもShadow Desktopの動作は問題ありませんでした。

選定理由〈3〉 手厚い安心のサポート

従業員のPC環境は個々に異なるため、どうしても不測の事態は起こり得ます。動作が安定しているShadow Desktopも例外ではなく、PoCの期間中に多少のトラブルはありました。そうしたなか、有難かったのはアップデータの「お客様の声を伺い、しっかり対応する」サポートのスタンス。できないという答えはなく、常に何らかの対策を提案してくれるサポートはとても安心できました。実際、一部のPCでOneDriveが利用できないトラブルがありましたが、すぐに解決していただきました。この手厚い安心のサポートは、Shadow Desktop導入の大きな決め手でした。

AFTER

Shadow Desktop導入後の評価・効果

Shadow Desktop導入後、従業員からの問い合わせは週1件あるかないかの程度。問い合わせ内容についても、Shadow Desktopに起因することは少なく、当社の環境あるいはハードウェア的な問題のほうが多く、そういった意味では、稼働後の安定性は非常に良好という印象です。もちろん、クリティカルな問題も出ていません。ほか、使い勝手の評価と効果については、以下の通りです。

☆☆☆ 評価 インストール前とほぼ変わらない使用感

Shadow Desktopのインストール前後でPCの使用感はほぼ変わっていません。インストール前と同様のスピード感・操作感でPCを利用できています。しかも、PC利用後のデータはローカルではなく、OneDrive上に自動保管。セキュリティを担保するうえで、ユーザーにかかる負荷がないことが何よりも素晴らしいと感じています。

☆☆☆ 評価 導入後も手厚いサポート

PoCのときから手厚くサポートをしていただきましたが、導入後もそのサポートは変わりませんでした。電話やメール、ときにはオンサイトでサポートしていただくなど、いつも親身に寄り添ってくれるアップデータのサポート力を高く評価しています。

☆☆☆ 評価 バックアップ用途に活用できる

紛失・盗難だけでなく、昨今は自然災害などによってPCが故障してしまうリスクも増大。データ漏えい対策に加え、BCP（business continuity planning：事業継続計画）対策を考慮したバックアップも重要になってきています。ただ、従業員にバックアップを心がけるように通知しても、その手間を考えると容易ではありません。しかし、Shadow Desktopをインストールしておけば、上書き保存のタイミングで世代を保持するバージョン履歴機能付きのバックアップオプションの利用が可能。不測の事態でPCが利用できなくなっても、バージョン履歴を確認しながら別のPCにリストアすることができます。

今後の展開

EDR（Endpoint Detection and Response）を導入していても、ランサムウェアの脅威は拭うことができません。そこで、PCがランサムウェアに感染してしまった場合のことを想定し、Shadow Desktopを利用したデータ復旧の方法をトレーニングする予定です。まずは我々の部門で行い、手順化できたら各部門に幅広くアナウンスしたいと考えています。現在のライセンスは在宅勤務やPCを持ち出す従業員を対象にした600台ですが、Shadow Desktopで実現できるBCP対策やウイルス対策などの有用性を考えると、「すべてのノートPCにShadow Desktopを入れるべき」という考えも出てきています。今後はライセンスを増やすことを選択肢のひとつに入れながら、社内で議論を重ねていくことになるでしょう。さらに、ITガバナンスの観点から、弊社の海外拠点における端末のセキュリティ担保は、Shadow Desktopが適しているのではないかと考えています。ただ、データ越境における法規制、各国の異なるネットワーク環境など、超えなければならないハードルがいくつもあります。難しい話になるかとは思いますが、アップデータと協議をしながら打開策を見つけられればと考えています。今後もShadow Desktopに期待しております。

（左）
IT統括部
ITセキュリティ推進部 部長
二階堂 信夫 様

アップデータ株式会社
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-5-8KDX神田北口ビル 7F
03-6853-7800
sales@updata.co.jp